

欧米でのパーティーで、日本鼻祖の人の出会うことがある。彼らの中には、こちらが襟を正してしまつほど日本文化に造詣の深い人がいる。そして、必ず京都の魅力を語り始める。

桂離宮は、八条宮(桂宮)の別荘として智仁親王によって江戸時代に作られた。智仁親王は、正親町天皇の孫で、後陽成天皇の弟にあたる皇族で古典や歌に造詣が深かったと言われている。この名を聞いて、歴史好きの方は、幼くして豊臣秀吉の嫡子となり、後継として将来関白職を約束されていたが、後に秀吉の実子が生まれてからは嫡子を解約し、八条宮家を創設したという数奇な運

デザインのチカラ

⑪



桂離宮の松琴亭。この一室に、藍色と白のモダンな市松模様のデザインが使われている(宮内庁ホームページより)

背景にある歴史と重ね

命の親王として記憶されていることだろう。

桂離宮は、智仁親王が建築を始め、子息の智忠親王が増築した。デザインの異なる四つの茶室や日本庭園の最高傑作とも言われる回遊式庭園をはじめ数百年前の建築ながら、随所に古さを感じさせない美が凝縮されている。藍色と白の市松文様

を内装デザインに使った茶室松琴亭の前の池には天ノ橋立に見立てて作った石橋や州浜がある。切石と自然の石を使った見事な作庭だ。

デザインには無駄なものが省かれ、シンプルなのに静かな精神性を感じさせる。数百年たった今も人々の心を魅了してやまない桂離宮には、和の美意識の真骨頂であるミニマムなデザインの世界が広がる。

織田信長の時代は、武家と堺商人など豪商が楽しんだ茶の湯を公家社会に広めたのは秀吉と言われている。天正13年(1585年)の禁裏茶会

は、京都御所において秀吉が正親町天皇に茶を献じた茶会で、茶堂として

仕えた千利休が、帝より「利休居士号」を与えられ名実共に天下第一の茶人となったことで知られる。

公家社会に茶の湯文化が伝播していなければ茶の湯の世界観を感じる桂離宮のデザインは生まれなかつたかもしれない。背景にある歴史と重ねて見ると、デザインが時代を写す鏡であることが分かる。

(西谷直子・三井デザインテック・コミュニケーション・エディター)